



いわ た しゅう じ
岩田 修二 1946年4月18日生

学 歴

- 1966年3月 六甲高等学校（神戸市）卒業
1971年3月 明治大学文学部史学地理学科地理学専攻卒業
1973年3月 東京都立大学理学研究科修士課程地理学専攻修了
1976年3月 東京都立大学理学研究科博士課程地理学専攻単位取得退学
1983年1月 学位取得（理学博士 東京都立大学）
Physiographic conditions for the rubble slope formation on Mt. Shirouma-dake, the Japan Alps

職 歴

- 1976年4月 日本学術振興会奨励研究員
1977年4月 東京都立大学研究生
1978年4月 東京都立大学理学部助手（地理学教室地誌学講座）
1987年4月 三重大学人文学部助教授（地誌学系 アジア・オセアニア・コース）
1990年4月 三重大学人文学部教授昇任
1994年4月 東京都立大学理学部教授（地理学教室環境変遷学講座）
1997年4月 東京都立大学理学研究科教授（改組による）
2005年4月 首都大学東京都市環境学部教授（改組による）
2006年4月 立教大学観光学部観光学科教授
2012年3月 立教大学観光学部観光学科教授退職

社会における主な活動

- 大学共同利用機関法人情報システム研究機構 国立極地研究所 南極観測審議委員会委員（2003年9月～2005年9月）
日本学術会議 地質科学総合研究連絡委員会 第四紀学専門委員会委員長（2003年11月～2005年9月）
日本地理学会理事長（2004年4月～2006年3月）
東京地学協会理事（2009年6月～現在に至る）

主要学術業績（立教大学着任後のもののみ）

著書・編書

- 日本第四紀学会・町田 洋・岩田修二・小野 昭（編）2007.『地球史が語る近未来の環境』，東京大学出版会，238 + 20 pp.
齊藤 功・石井英也・岩田修二（編）2009.『日本の地誌6 首都圏Ⅱ』朝倉書店，583 pp.
岩田修二 2011.『氷河地形学』東京大学出版会，400 pp.

論文・学術記事

- 岩田修二 2006. 上高地の地形. 松本市安曇資料館編『梓川溪谷の地形誌』松本市安曇資料館，30-31.
岩田修二 2006. 上高地の地形. 町田 洋・松田時彦・海津正倫・小泉武栄（編）『日本の地形5 中

- 部』東京大学出版会, 217-218.
- 岩田修二・渡辺悌二 2007. パキスタン北部, ゴジャール, パスー村周辺での氷河観光開発計画. 立教大学観光学部紀要, 9号, 11-26.
- 岩田修二 2007. 氷河湖決壊洪水の危機にさらされるブータン王国—緊急に必要な監視調査—. *E-journal GEO*, **2**(1), 1-24, (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/ajg/ejgeo/210124 iwata.pdf>).
- Iwata, S. 2007. Glacial lake expansion in the Bhutan Himalaya: risks of glacial lake outburst floods. *Japanese Alpine News*, **8**, 97-107.
- Iwata, S. 2007. Glacier shrinkage for recent 40 years in Tianshan Mountains, China. *Japanese Alpine News*, **8**, 108-113.
- 岩田修二 2008. ジオパークでの情報発信. 地理, **53**(9), 32-38.
- 岩田修二 2008. 中国の山岳地図. 地図情報, **28**(1), 14-17.
- 岩田修二 2008. パミールとはどんなところか?—範囲・地形・環境. 地理, **53**(1), 18-29.
- 岩田修二 2009. 高地アジアの氷河を越える家畜群. 立教大学観光学部紀要, 11号, 110-123.
- 岩田修二 2009. ヒマラヤ山脈と世界最高峰の地図. 地図情報, **29**(3), 4-7.
- Iwata, S. 2009. Mapping features of Fedchenko Glacier, the Pamirs, central Asia from space. *Geographical Studies* (地理学論集), No. 84, 33-43.
- メイヤー著 岩田修二訳 2009. 大項目辞典 氷河. ブリタニカ国際大百科事典, <http://japan.eb.com/m/article-131450>.
- 岩田修二 2009. 紹介:『上高地の素顔』の注目すべき内容. 上高地自然史研究会編『上高地梓川における植生と地形およびその保全・管理に関する研究』上高地自然史研究会成果報告書, 第11号, 23-38.
- 岩田修二 2009. 北海道の周氷河現象と氷河地形. 北海道の自然 (北海道自然保護協会), 47号, 54-58.
- 岩田修二・小森次郎 2010. 最近の氷河変動の意味するもの—消滅する氷河と拡大する氷河湖—. 遠藤邦彦・山川修治・藁谷哲也 (編著)『極圏・雪氷圏と地球環境』二宮書店, 52-72.
- 岩田修二 2010. 槍・穂高連峰と上高地の自然史. 高木 誠『氷河の消えた山』東京新聞出版部, 122-134.
- 岩田修二 2010. 赤道高山の縮小する氷河. 立教大学観光学部紀要, 12号, 73-92.
- 岩田修二 2010. 日本列島氷河問題の回顧と現状: 1936年から2010年3月まで (岩田修二編:「日本列島の氷河地形に関する文献」をふくむ). 山岳, **105**, A41-A79.
- Iwata, S. 2010. Glaciers in Bhutan—An Overview. Williams, R.S. and Ferrigno, J. (eds.) *Satellite Image Atlas of Glaciers of the World: U. S. Geological Survey Professional Paper*, **1386-F**, 321-334.
- 岩田修二・小森次郎 2011. ブータンの氷河湖決壊洪水—住民を守るための調査と援助. 科学, **81**, 0562-0568. (Vol. 81, No.6).
- 菊地俊夫・岩田修二・渡辺真人・松本 淳・小出 仁 2011. 特集号「ジオパークと地域振興」—巻頭言—. 地学雑誌, **120**, 729-732.
- 岩田修二 2012. 「大地の遺産」の集合体としてのジオパークの提唱. 立教大学観光学部紀要, 14号, 5-17.

